

製品名: WASP (リン酸化 Tyr290) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab05628**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	60kDa

抗原情報

遺伝子名	WAS
別名	WAS; IMD2; Wiskott-Aldrich syndrome protein; WASp
遺伝子 ID	7454.0
SwissProt ID	P42768
免疫原	抗血清は、ヒト WASP 由来の Tyr290 のリン酸化部位周辺の合成ペプチドに対して作製された。 アミノ酸範囲: 256-305

背景

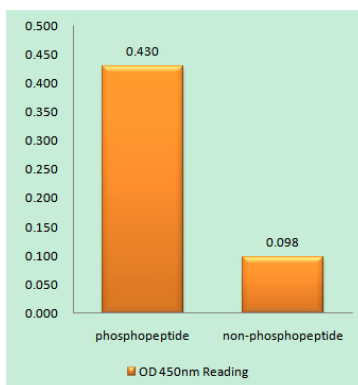
ウィスコット・アルドリッチ症候群 (WAS) タンパク質ファミリーは、類似したドメイン構造を共有し、細胞表面の受容体からアク

チン細胞骨格へのシグナル伝達に関与しています。多数の異なるモチーフの存在は、これらのタンパク質が多数の異なる刺激によって制御され、多数のタンパク質と相互作用することを示唆しています。最近の研究では、これらのタンパク質が、アクチンフィラメントの形成を制御することで知られる低分子量 GTPase Cdc42、および細胞骨格形成複合体 Arp2/3 と直接的または間接的に関連することが実証されています。ウィスコット・アルドリッチ症候群は、免疫調節異常および微小血小板減少症を特徴とするまれな X 連鎖劣性遺伝性疾患であり、WAS 遺伝子の変異によって引き起こされます。WAS 遺伝子産物は細胞質タンパク質であり、造血細胞でのみ発現し、WAS 患者でシグナル伝達および細胞骨格の異常を示します。疾患: WAS の欠陥は、X 連鎖重症先天性好中球減少症 (XLN) [MIM:300299] の原因です。XLN は、反復性の主要な細菌感染症、重症先天性好中球減少症、および単球減少症を特徴とする X 連鎖免疫不全症候群です。疾患: WAS の欠陥は、血小板減少症 1 型 (THC1) [MIM:313900] の原因です。血小板減少症は、循環血液中の血小板数の減少によって定義され、出血が増加し、血液凝固能力が低下する可能性があります。疾患: WAS の欠陥は、湿疹・血小板減少症・免疫不全症候群としても知られる Wiskott-Aldrich 症候群 (WAS) [MIM:301000] の原因です。WAS は、湿疹、血小板減少症、反復性感染症、および血性下痢を特徴とする X 連鎖劣性免疫不全症です。通常、10 歳未満で死亡します。ドメイン: CRIB (Cdc42/Rac 相互作用結合) 領域は、タンパク質の自己阻害状態において C 末端 WH2 ドメインに結合します。Rho 型 GTPase が CRIB に結合すると、構造変化が誘導され、活性化が誘導されます。ドメイン: WH1 (Wasp ホモロジー 1) ドメインは、Pro に富むリガンドに結合する可能性があります。機能: Rho 型 GTPase のエフェクタータンパク質であり、アクチン細胞骨格の構造とダイナミクスを制御する Arp2/3 複合体との結合を提供します。効率的なアクチン重合に重要です。リンパ球および血小板機能の調節因子と考えられる。オンライン情報: WAS 変異データベース, オンライン情報: Wiskott-Aldrich 症候群タンパク質エントリ, 類似性: CRIB ドメインを 1 つ含む。類似性: WH1 ドメインを 1 つ含む。類似性: WH2 ドメインを 1 つ含む。サブユニット: CDC42、RAC、NCK、FYN、SRC キナーゼ FGR、BTK、ABL、PSTPIP1、WIP、および PLC- γ の p85 サブユニットに結合します。Arp2/3 複合体に結合します。組織特異性: 主に胸腺で発現します。また、ごく少量ですが脾臓にも存在します。

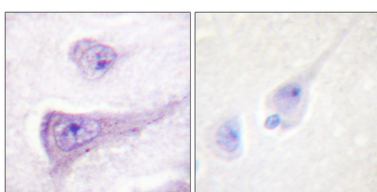
研究分野

ケモカイン; 接着結合; Fc ガンマ R を介した貪食; アクチンと細胞骨格を調節; 病原性大腸菌感染;

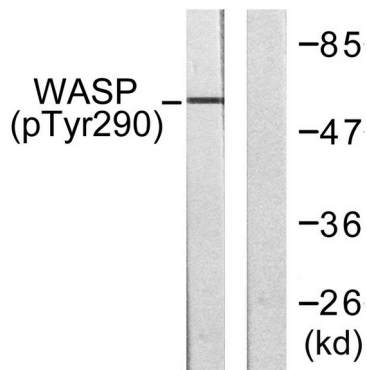
画像データ



WASP (リン酸化 Tyr290) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定法 (リン酸化 ELISA)



WASP (リン酸化 Tyr290) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



WASP (リン酸化 Tyr290) 抗体を用いた HepG2 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。